

## D I ニュース

薬剤部 薬品情報係

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	<b>デルマクリン A 軟膏 1%</b> <b>デルマクリンクリーム 1%</b>
(英名)	DERMACRIN A Ointment 1%    DERMACRIN Cream 1%
(規格・含有量)	共に 10g/本 1g 中 グリチルレチン酸 10mg
(一般名)	グリチルレチン酸製剤
(メーカー名)	ミノファーゲン製薬
【薬価収載日】	2008 年 6 月
【薬価】	共に 15.50 円/1g
【薬効コード】	872649
【薬効分類名】	抗炎症・鎮痒外用剤
効能・効果	湿疹、皮膚そう痒症、神経皮膚炎
用法・用量	通常、症状により適量を 1 日数回患部に塗布または塗擦する。
禁忌	—
相互作用	—
副作用	<b>その他 過敏症</b>
備考	軟膏・クリームを空气中に長時間放置すると変色することがある。

(薬品名)	<b>ノボセブン HI 静注用 1mg・2mg・5mg</b>
(英名)	NovoSeven HI
(規格・含有量)	1mg/瓶 有効成分(1 バイアル中)エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え):1.1mg 2mg/瓶 有効成分(1 バイアル中)エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え):2.1mg 5mg/瓶 有効成分(1 バイアル中)エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え):5.2mg
(一般名)	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)
(メーカー名)	ノボ ノルディスク ファーマ
【薬価収載日】	2010 年 4 月
【薬価】	1mg/瓶:98,024.00 円    2mg/瓶:189,000.00 円    5mg/瓶:450,177.00 円
【薬効コード】	87634
【薬効分類名】	遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤
効能・効果	①血液凝固第Ⅷ因子又は第Ⅸ因子に対するインヒビターを保有する先天性血友病及び後天性血友病患者の出血抑制 ②先天性第Ⅶ因子欠乏症患者における出血傾向の抑制
用法・用量	①本剤は製剤に添付された溶解液を全量用いて溶解し、2～5分かけて静脈内に注射する。 初回投与量は 90 μg/kg(4.5KIU/kg)とする。その後は 1 回投与量として 60～120 μg/kg(3～6KIU/kg)を、出血の種類及び程度に応じて適宜増減する。初期は、止血が得られ、臨床的改善が観察されるまで、2～3 時間ごとに投与する。その後も治療が必要と判断される期間は、投与間隔を適宜延長する。 ②本剤は製剤に添付された溶解液を全量用いて溶解し、2～5分かけて静脈内に注射する。 15～30 μg/kg(0.75～1.5KIU/kg)を止血が得られるまで 4～6 時間ごとに投与する。出血の種類及び程度に応じて投与量は適宜増減できる。また、投与間隔も適宜調整できる。
禁忌	①敗血症(特に、重度のグラム陰性菌感染に伴う敗血症)患者[エンドキシン血症に伴う DIC 誘発の危険性を否定できないため] ②本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	<b>本剤作用増強・他剤作用増強</b> 抗線溶剤:トナネキサム酸、アミノカプロン酸 等
副作用	<b>重大な副作用</b> 血栓症
備考	有効成分 1mg は 50KIU に相当する

(薬品名)	ザラカム配合点眼液	市販直後調査 平成22年4月～平成22年10月
(英名)	Xalacom Combination Eye Drops	
(規格・含有量)	2.5mL/本 1mL中:有効成分ラタノプロスト50 $\mu$ g 日局 チモロールマレイン酸塩 6.83mg(チモロールとして5mg)	
(一般名)	ラタノプロスト・チモロールマレイン酸塩配合	
(メーカー名)	ファイザー	
【薬価収載日】	2010年4月	
【薬価】	1306.00円/1mL	
【薬効コード】	871319	
【薬効分類名】	緑内障・高眼圧症治療剤	
効能・効果	緑内障、高眼圧症	
用法・用量	1回1滴、1日1回点眼する。	
禁忌	①気管支喘息、又はその既往歴のある患者、気管支痙攣、重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者 ②コントロール不十分な心不全、洞性徐脈、房室ブロック(II、III度)、心原性ショックのある患者 ③本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	<b>本剤作用増強</b> アドレナリン、ジピペフリン塩酸塩 <b>本剤副作用増強</b> CYP2D6阻害作用を有する薬剤(キニジン硫酸塩水和物、選択的セロトニン再取り込み阻害薬等) <b>他剤副作用増強</b> カテコールアミン枯渇薬(レセルピン等) <b>本剤作用増強・他剤作用増強</b> ① $\beta$ 遮断薬(アテノロール、プロプラノロール塩酸塩、メプロロール酒石酸塩等) ②カルシウム拮抗薬(ベラパミル塩酸塩、ジルチアゼム塩酸塩等) ③ジギタリス製剤(ジゴキシン、ジギトキシン) <b>その他 眼圧上昇</b> ①プロスタグランジン系点眼薬(イソプロピルウノプロストン、ビマトプロスト等)	
副作用	<b>重大な副作用</b> 虹彩色素沈着、眼類天疱瘡、気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全、心ブロック、心不全、心停止、脳虚血、脳血管障害、全身性エリテマトーデス <b>その他</b> 眼刺激	
備考	①頻回投与により眼圧下降作用が減弱する可能性があるため、1日1回を超えて投与しないこと。 ②ベンザルコニウム塩化物によりコンタクトレンズを変色させることがあるので、コンタクトレンズを装着している場合には、点眼前にレンズを外し、本剤を投与してから15分以上経過後に再装着すること。	

(薬品名)	ノボラピッド 50 ミックス注フレックスペン ノボラピッド 70 ミックス注フレックスペン	劇
(英名)	NovoRapid 50 Mix FlexPen NovoRapid 70 Mix FlexPen	
(規格・含有量)	50ミックス:1筒(3mL) (溶解インスリン アスパルト:プロタミン結晶性インスリン アスパルト)300単位 (5:5) 70ミックス:1筒(3mL) (溶解インスリン アスパルト:プロタミン結晶性インスリン アスパルト)300単位 (7:3)	
(一般名)	インスリン アスパルト(遺伝子組換え)	
(メーカー名)	ノボ ノルディスク	
【薬価収載日】	2010年4月	
【薬価】	2,287.00円/50ミックス1筒 2,286.00円/70ミックス1筒	
【薬効コード】	872492	
【薬効分類名】	その他のホルモン剤	
効能・効果	インスリン療法が適応となる糖尿病	
用法・用量	<b>①ノボラピッド 50 ミックス注フレックスペン</b> 本剤は、超速効型インスリンアナログと中間型インスリンアナログを5:5の割合で含有する混合製剤である。通常、成人では、初期は1回4～20単位を1日2回、朝食直前と夕食直前に皮下注射する。なお、1日1回投与のときは朝食直前に皮下注射する。 投与量は症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、維持量は通常1日4～80単位である。 <b>②ノボラピッド 70 ミックス注フレックスペン</b> 本剤は、超速効型インスリンアナログと中間型インスリンアナログを7:の割合で含有する混合製剤である。通常、成人では、初期は1回2～20単位を1日3回毎食直前に皮下注射する。投与量は症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常1日4～100単位である。	
禁忌	①低血糖症状を呈している患者 ②本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	1.血糖降下作用を増強する薬剤 <b>本剤作用増強・他剤作用増強</b> ①ビグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩、ブホルミン塩酸塩) ②スルホニルウレア系薬剤(トルブタミド) ③スルホニルアミド系薬剤(グリブゾール) ④速効型インスリン分泌促進剤(ナテグリ	

	<p>ニド等)</p> <p><b>他剤作用増強</b> <math>\alpha</math>-グルコシダーゼ阻害剤(ボグリボース等)</p> <p><b>本剤作用増強</b> ①インスリン抵抗性改善剤(ピオグリタゾン) ②モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤 ③三環系抗うつ剤(ノルトリプチリン塩酸塩等) ④サリチル酸誘導体(アスピリン、エテンザミド) ⑤グアネチジン硫酸塩 ⑥ベザフィブラート ⑦サルファ剤 ⑧シベンゾリンコハク酸塩、ジソピラミド、ピルメノール塩酸塩水和物 ⑨抗腫瘍剤:シクロスファミド水和物</p> <p><b>本剤副作用増強</b> <math>\beta</math>-遮断剤(プロプラノロール塩酸塩、アテノロール、ピンドロール)</p> <p><b>その他</b> ①クマリン系薬剤(ワルファリンカリウム) ②クロラムフェニコール</p> <p>2. 血糖降下作用を減弱する薬剤</p> <p><b>本剤作用減弱</b> ①チアジド系利尿剤:トリクロルメチアジド、シクロペンチアジド ②副腎皮質ステロイド:プレドニゾロン、トリアムシロン ③ACTH:テトラコサクトド酢酸塩 ④アドレナリン ⑤グルカゴン ⑥甲状腺ホルモン:レボチロキシナトリウム水和物、乾燥甲状腺 ⑦成長ホルモン:ソマトロピン ⑧卵胞ホルモン:エチニルエストラジオール、結合型エストロゲン ⑨経口避妊薬 ⑩ニコチン酸 ⑪濃グリセリン ⑫フェニルプロパノールアミン ⑬イソニアジド ⑭ダナゾール ⑮フェニトイン</p> <p>3 血糖降下作用を増強又は減弱する薬剤</p> <p>蛋白同化ステロイド:メスタノロン</p> <p>オクトレオチド</p>
副作用	<b>重大な副作用</b> 低血糖、アナフィラキシーショック、血管神経性浮腫

(薬品名)	<b>クラビット細粒 10%</b>
(英名)	CRAVIT FINE GRANULES
(規格・含有量)	細粒 1g 中にレボフロキサシン水和物 102.5mg(レボフロキサシンとして 100mg)を含有
(一般名)	レボフロキサシン水和物製剤
(メーカー名)	第一三共
【薬価収載日】	2009年6月
【薬価】	130.00円/1g
【薬効コード】	876241
【薬効分類名】	広範囲経口抗菌製剤
効能・効果	<p>〈適応菌種〉</p> <p>本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌属、腸球菌属、淋菌、モラクセラ(ブランハマ)・カタラーリス、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、ペスト菌、コレラ菌、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、レジオネラ属、ブルセラ属、野兔病菌、カンピロバクター属、ペプトストレプトコッカス属、アクネ菌、Q熱リケッチア(コクシエラ・ブルネティ)、トラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス)</p> <p>〈適応症〉</p> <p>表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎)、尿道炎、子宮頸管炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、コレラ、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、炭疽、ブルセラ症、ペスト、野兔病、Q熱</p>
用法・用量	<p>通常、成人にはレボフロキサシンとして1回500mg(錠500mg:1錠、錠250mg:2錠、もしくは細粒10%:5g)を1日1回経口投与する。なお、疾患・症状に応じて適宜減量する。</p> <p>腸チフス、パラチフスについては、レボフロキサシンとして1回500mg(錠500mg:1錠、錠250mg:2錠、もしくは細粒10%:5g)を1日1回14日間経口投与する。</p>
禁忌	<p>①本剤の成分又はオフロキサシンに対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>②妊婦又は妊娠している可能性のある婦人</p> <p>③小児等ただし、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び小児等に対しては、炭疽等の重篤な疾患に限り、治療上の有益性を考慮して投与すること。</p>
相互作用	<p><b>本剤副作用増強</b> フェニル酢酸系又はプロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛薬(フルルビプロフェン等)</p> <p><b>本剤作用減弱</b> アルミニウム又はマグネシウム含有の制酸薬等、鉄剤</p> <p><b>他剤作用増強</b> クマリン系抗凝固薬(ワルファリン)</p>
副作用	<b>重大な副作用</b> ショック、アナフィラキシー様症状、中毒性表皮壊死症、皮膚粘膜眼症候群、痙攣、QT延長、急性腎不全、間質性腎炎、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、汎血球減少症、無顆粒球症、溶血性貧血、血小板減少、間質性肺炎、好酸球性肺炎、偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎、横紋筋融解症、低血糖、アキレス腱炎、腱断裂等の腱障害、錯乱、せん妄、抑うつ等の精神症状、過敏性血管炎、重症筋無力症の悪化

(薬品名)	エクア錠 50mg	市販直後調査 平成 22 年 4 月～平成 22 年 10 月
(英名)	Equa Tablets 50mg	
(規格・含有量)	1 錠中ビルダグリプチン 50mg	
(一般名)	ビルダグリプチン錠	
(メーカー名)	ノバルティス ファーマ	
【薬価収載日】	2010 年 4 月	
【薬価】	104.70 円/1 錠	
【薬効コード】	873969	
【薬効分類名】	選択的 DPP-4 阻害薬 [2 型糖尿病治療薬]	
効能・効果	2 型糖尿病 ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。 (1) 食事療法、運動療法のみ (2) 食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤を使用	
用法・用量	通常、成人には、ビルダグリプチンとして 50mg を 1 日 2 回朝、夕に経口投与する。なお、患者の状態に応じて 50mg を 1 日 1 回朝に投与することができる。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、1 型糖尿病の患者 ③重度の肝機能障害のある患者 ④重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者	
相互作用	1. 血糖降下作用を増強する薬剤 <b>本剤作用増強</b> ①糖尿病用剤(スルホニルアミド系及びスルホニルウレア系薬剤、ビッグアニド系薬剤、インスリン製剤、チアゾリジン系薬剤、 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤、食後血糖降下剤等) ② $\beta$ -遮断剤 ③サリチル酸剤 ④MAO 阻害剤 ⑤フィブラート系薬剤等 2. 血糖降下作用を減弱する薬剤 <b>本剤作用減弱</b> アドレナリン、副腎皮質ホルモン、甲状腺ホルモン等 <b>本剤・他剤副作用増強</b> アンジオテンシン変換酵素阻害剤	
副作用	<b>重大な副作用</b> 肝炎、肝機能障害、血管浮腫、低血糖症	
備考	他の DPP-4 阻害薬と比べ併用可能な糖尿病薬に違いがある	

(薬品名)	エックスフォージ配合錠	劇	市販直後調査 平成 22 年 4 月～平成 22 年 10 月
(英名)	EXFORGE Combination Tablets		
(規格・含有量)	1 錠中バルサルタン 80mg 及びアムロジピンベシル酸塩(日局)6.93mg(アムロジピンとして 5mg)を含有		
(一般名)	バルサルタン/アムロジピンベシル酸塩配合錠		
(メーカー名)	ノバルティス ファーマ		
【薬価収載日】	2010 年 4 月		
【薬価】	130.10 円/1 錠		
【薬効コード】	872149		
【薬効分類名】	選択的 AT <sub>1</sub> 受容体ブロッカー/持続性 Ca 拮抗薬合剤		
効能・効果	高血圧症		
用法・用量	成人には 1 日 1 回 1 錠(バルサルタンとして 80mg 及びアムロジピンとして 5mg)を経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。		
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②ジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者 ③妊婦又は妊娠している可能性のある婦人		
相互作用	<b>本剤副作用増強</b> ①カリウム保持性利尿剤(スピロラクトン、トリアムテレン等) ②カリウム補給製剤(塩化カリウム) <b>本剤作用増強</b> リトナビル <b>本剤・他剤作用増強</b> 降圧作用を有する他の薬剤		
副作用	<b>重大な副作用</b> 血管浮腫、肝炎、肝機能障害、黄疸、腎不全、高カリウム血症、ショック、失神、意識消失、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、間質性肺炎、低血糖、房室ブロック		

(薬品名)	カデュエット配合錠 4番	劇
(英名)	Caduet combination Tablets	
(規格・含有量)	1 錠中日局 アムロジピンベシル酸塩 6.94mg(アムロジピンとして 5mg) 及びアトルバスタチンカルシウム水和物 10.85mg(アトルバスタチンとして 10mg)	

<p>(一般名) (メーカー名) 【薬価収載日】 【薬価】 【薬効コード】 【薬効分類名】</p>	<p>アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物配合剤 ファイザー 2009年9月 183.20円/1錠 872190 持続性Ca拮抗薬/HMG-CoA還元酵素阻害剤</p>
<p>効能・効果</p>	<p>本剤(アムロジピン・アトルバスタチン配合剤)は、アムロジピン及びアトルバスタチンによる治療が適切である以下の患者に使用する。 高血圧症又は狭心症と、高コレステロール血症又は家族性高コレステロール血症を併発している患者 なお、アムロジピンとアトルバスタチンの効能・効果は以下のとおりである。 <b>アムロジピン</b> ・高血圧症 ・狭心症 <b>アトルバスタチン</b> ・高コレステロール血症 ・家族性高コレステロール血症</p>
<p>用法・用量</p>	<p>本剤(アムロジピン・アトルバスタチン配合剤)は、1日1回経口投与する。なお、以下のアムロジピンとアトルバスタチンの用法・用量に基づき、患者毎に用量を決めること。 <b>アムロジピン</b> ・高血圧症 通常、成人にはアムロジピンとして2.5～5mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じ適宜増減するが、効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。 ・狭心症 通常、成人にはアムロジピンとして5mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じ適宜増減する。 <b>アトルバスタチン</b> ・高コレステロール血症 通常、成人にはアトルバスタチンとして10mgを1日1回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減するが、重症の場合は1日20mgまで増量できる。 ・家族性高コレステロール血症 通常、成人にはアトルバスタチンとして10mgを1日1回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減するが、重症の場合は1日40mgまで増量できる。</p>
<p>禁忌</p>	<p>①本剤の成分又はジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者 ②肝代謝能が低下していると考えられる以下のような患者 急性肝炎、慢性肝炎の急性増悪、肝硬変、肝癌、黄疸[肝硬変患者において、アトルバスタチンの血漿中HMG-CoA還元酵素阻害活性体濃度が健康成人に比べて上昇した(AUCで4.4～9.8倍)臨床試験成績がある。したがって、これらの患者ではアトルバスタチンの血漿中濃度が上昇し、副作用の発現頻度が増加するおそれがある。また、アトルバスタチンは主に肝臓において作用し代謝されるので、肝障害を悪化させるおそれがある。 ③妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦  原則禁忌 (次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること) 腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合のみ併用すること。</p>
<p>相互作用</p>	<p><b>原則禁忌</b> フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等)  アムロジピン <b>本剤・他剤作用増強</b> 降圧作用を有する薬剤 <b>本剤作用増強</b> リトナビル  アトルバスタチン <b>本剤・他剤副作用増強</b> ①フィブラート系薬剤(ベザフィブラート等) ②ニコチン酸製剤(ニセリトロール等) ③免疫抑制剤(シクロスポリン等) <b>本剤副作用増強</b> ①アゾール系抗真菌薬(イトラコナゾール等) ②エリスロマイシン <b>本剤作用増強</b> ①クラリスロマイシン ②HIVプロテアーゼ阻害剤(メシル酸ネルフィナビル等) ③グレープフルーツジュース <b>本剤作用減弱</b> ①エファビレンツ ②リファンピシン ③陰イオン交換樹脂 <b>他剤作用増強</b> ①ジゴキシン ②経口避妊薬(ノルエチンドロン-エチニルエストラジオール)</p>
<p>副作用</p>	<p><b>重大な副作用</b> 肝機能障害、黄疸、血小板減少、白血球減少、房室ブロック、横紋筋融解症、ミオパシー、劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸、過敏症、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell症候群)、多形紅斑、高血糖、糖尿病、間質性肺炎</p>

(薬品名)	レザルタス配合錠 HD	市販直後調査 平成 22 年 4 月～平成 22 年 10 月
(英名)	REZALTAS COMBINATION TABLETS	
(規格・含有量)	1 錠中にオルメサルタン メドキシミル 20mg アゼルニジピン 16mg を含有	
(一般名)	オルメサルタン メドキシミル/アゼルニジピン配合錠	
(メーカー名)	第一三共	
【薬価収載日】	2010 年 4 月	
【薬価】	170.10 円/1 錠	
【薬効コード】	872149	
【薬効分類名】	高親和性 ARB/持続性 Ca 拮抗薬配合剤	
効能・効果	高血圧症	
用法・用量	通常、成人には 1 日 1 回 1 錠(オルメサルタン メドキシミル/アゼルニジピンとして 10mg/8mg 又は 20mg/16mg) を朝食後経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 ③アゾール系抗真菌剤(イトラコナゾール、ミコナゾール等)、HIV プロテアーゼ阻害剤(リトナビル、サキナビル、インジナビル等)を投与中の患者	
相互作用	<b>併用禁忌</b> ①アゾール系抗真菌剤(イトラコナゾール(イトリゾール)、ミコナゾール(フロリード)等) ②HIV プロテアーゼ阻害剤(リトナビル(ノービア)、サキナビル(インビラーゼ)、インジナビル(クリキシバン)等) <b>本剤副作用増強</b> ①カリウム保持性利尿剤(スピロラクトン、トリアムテレン等) ②カリウム補給剤(塩化カリウム等) <b>本剤・他剤作用増強</b> ①他の降圧剤 ②シクロスポリン ③ベンゾジアゼピン系薬剤(ジアゼパム、ミダゾラム、トリアゾラム等) ④経口黄体・卵胞ホルモン(経口避妊薬等) <b>他剤作用増強</b> ①ジゴキシン ②シンバスタチン <b>本剤作用増強</b> ①シメチジン ②イマチニブメシル酸塩 ③デラビルジンメシル酸塩 ④マクロライド系抗生物質(エリスロマイシン、クラリスロマイシン等) ⑤タンドスピロンクエン酸塩 ⑥グレープフルーツジュース <b>本剤作用減弱</b> リファンピシン、フェニトイン、フェノバルビタール	
副作用	<b>重大な副作用</b> 血管浮腫、腎不全、高カリウム血症、ショック、失神、意識消失、肝機能障害、黄疸、血小板減少、低血糖、房室ブロック、洞停止、徐脈	

(薬品名)	ミコンビ配合錠 AP
(英名)	Micombi Combination Tablets AP
(規格・含有量)	1 錠中 テルミサルタン 40mg ヒドロクロロチアジド 12.5mg を含有
(一般名)	テルミサルタン/ヒドロクロロチアジド配合錠
(メーカー名)	アステラス製薬
【薬価収載日】	2009 年 6 月
【薬価】	148.80 円/1 錠
【薬効コード】	872149
【薬効分類名】	胆汁排泄型持続性 AT <sub>1</sub> 受容体ブロッカー/利尿薬配合剤
効能・効果	高血圧症
用法・用量	成人には 1 日 1 回 1 錠(テルミサルタン/ヒドロクロロチアジドとして 40mg/12.5mg 又は 80mg/12.5mg)を経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。
禁忌	①本剤の成分及びチアジド系薬剤又はその類似化合物(例えばカロールタリド等のスルフォンアミド誘導体)に対し過敏症の既往歴のある患者 ②妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 ③胆汁の分泌が極めて悪い患者又は重篤な肝障害のある患者 ④無尿の患者又は血液透析中の患者 ⑤急性腎不全の患者 ⑥体液中のナトリウム・カリウムが明らかに減少している患者
相互作用	<b>他剤作用増強</b> ①ジギタリス剤(ジゴキシン、ジギトキシン) ②ツボクラリン及びその類似作用物質(ツボクラリン塩化物塩酸水和物、パンクロニウム臭化物) ③降圧作用を有する他の薬剤(ACE 阻害剤、β-遮断剤、ニトログリセリン等) <b>本剤副作用増強</b> ①カリウム保持性利尿剤(スピロラクトン、トリアムテレン等) ②カリウム補給剤 ③バルビツール酸誘導体 ④あへんアルカロイド系麻薬 ⑤アルコール ⑥乳酸ナトリウム <b>他剤副作用増強</b> リチウム製剤(炭酸リチウム) <b>本剤作用減弱・他剤副作用増強</b> 非ステロイド性抗炎症薬(NSAID <sub>s</sub> ) COX-2 選択的阻害剤(インドメタシン) <b>本剤・他剤副作用増強</b> ①アンジオテンシン変換酵素阻害剤 ②糖質副腎皮質ホルモン剤、ACTH ③グリチルリ

	チン製剤 <b>他剤作用減弱</b> ①昇圧アミン(ノルアドレナリン、アドレナリン)②糖尿病用剤(SU 剤、インスリン)③スルフィンピラゾン <b>本剤作用減弱</b> コレスチラミン
副作用	<b>重大な副作用</b> 血管浮腫、高カリウム血症、低ナトリウム血症、腎機能障害、ショック、失神、意識消失、肝機能障害、黄疸、低血糖、アナフィラキシー様症状、再生不良性貧血、溶血性貧血、間質性肺炎、肺水腫、肺臓炎を含む呼吸窮迫症、壊死性血管炎、全身性紅斑性狼瘡の悪化 <b>その他</b> めまい

(薬品名)	<b>アドレナリン注0.1%シリンジ「テルモ」</b> 劇
(英名)	<b>Adrenaline Injection 0.1%</b>
(規格・含有量)	1mL/1 筒 有効成分 1 シリンジ 1mL 中 アドレナリン 1mg を含有
(一般名)	アドレナリン注射液
(メーカー名)	テルモ
【薬価収載日】	2009 年 9 月
【薬価】	174.00 円/1 筒
【薬効コード】	872451
【薬効分類名】	副腎ホルモン剤
効能・効果	下記疾患に基づく気管支痙攣の緩解 気管支喘息, 百日咳 各種疾患もしくは状態に伴う急性低血圧またはショック時の補助治療 心停止の補助治療
用法・用量	[気管支喘息および百日咳に基づく気管支痙攣の緩解, 各種疾患もしくは状態に伴う急性低血圧またはショック時の補助治療, 心停止の補助治療.] アドレナリンとして, 通常成人 1 回 0.2~1mg(0.2~1mL)を皮下注射または筋肉内注射する. なお, 年齢, 症状により適宜増減する. 蘇生などの緊急時には, アドレナリンとして, 通常成人 1 回 0.25mg(0.25mL)を超えない量を生理食塩液などで希釈し, できるだけゆっくりと静注する. なお, 必要があれば, 5~15 分ごとにくりかえす.
禁忌	次の薬剤を投与中の患者(「相互作用」の項参照) (1) ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬, $\alpha$ 遮断薬 (2) イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤, アドレナリン作動薬 (ただし, 蘇生等の緊急時はこの限りでない.) 2. 狭隅角や前房が浅いなどの眼圧上昇の素因のある患者(点眼・結膜下注射使用時)* ※ 本剤には, 点眼・結膜下注射の適用はない.  原則禁忌 (次の患者には投与しないことを原則とするが, 特に必要とする場合には慎重に投与すること) 1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2. 交感神経作動薬に対し過敏な反応を示す患者 3. 動脈硬化症の患者 4. 甲状腺機能亢進症の患者 5. 糖尿病の患者 6. 心室性頻拍等の重症不整脈のある患者 7. 精神神経症の患者 8. コカイン中毒の患者
相互作用	<b>併用禁忌</b> 抗精神病薬 ブチロフェノン系薬剤(セレネース, トロペロン等) フェノチアジン系薬剤(ウインタミン等) イミジベンジル系薬剤(デフェクトン等) ゴテピン(ロドピン) リスペリドン(リスパダール) $\alpha$ 遮断薬イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤, アドレナリン作動薬(プロタノール等)  <b>本剤作用増強</b> ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン, イソフルラン, セボフルラン モノアミン酸化酵素阻害薬 三環系抗うつ薬イミプラミン, アミトリプチリン等 セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(SNRI) ミルナシプラン等 その他の抗うつ薬マプロチリン等 メチルフェニデート 分娩促進薬 オキシトシン等 バッカクアルカロイド類 エルゴタミン等 <b>本剤副作用増強</b> ジギタリス製剤 キニジン 甲状腺製剤 チロキシン等 非選択性 $\beta$ 遮断薬 プロプラノロール等 <b>他剤作用減弱</b> 血糖降下薬インスリン等 その他 プロモクリブテン <b>本剤作用減弱</b> 利尿剤 チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド, ヒドロクロロチアジド等 チアジド系類似剤 イ

	ンダバミド等 ループ利尿剤 フロセミド等カリウム保持性利尿剤スピロラクトン
副作用	<b>重大な副作用</b> 肺水腫呼吸困難心停止（初期症状：頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶）

（薬品名）	アトロピン注0.05%シリンジ「テルモ」(1mL)	劇
（英名）	Atropine Injection 0.05%	
（規格・含有量）	1mL/1筒 有効成分 1シリンジ 1mL 中アトロピン硫酸塩水和物 0.5mg を含有	
（一般名）	アトロピン硫酸塩注射液	
（メーカー名）	テルモ	
【薬価収載日】	2005年6月	
【薬価】	164.00円/1筒	
【薬効コード】	871242	
【薬効分類名】	鎮痙剤	
効能・効果	胃・十二指腸潰瘍における分泌並びに運動亢進，胃腸の痙攣性疼痛，痙攣性便秘，胆管・尿管の痙痛，有機燐系殺虫剤・副交感神経興奮剤の中毒，迷走神経性徐脈及び迷走神経性房室伝導障害，麻酔前投薬，その他の徐脈及び房室伝導障害，ECTの前投与	
用法・用量	アトロピン硫酸塩水和物として，通常成人0.5mgを皮下又は筋肉内に注射する。場合により静脈内に注射することもできる。なお，年齢，症状により適宜増減する。  有機燐系殺虫剤中毒の場合には，症状により次のように用いる。 軽症：アトロピン硫酸塩水和物として，0.5～1mgを皮下注射する。 中等症：アトロピン硫酸塩水和物として，1～2mgを皮下・筋肉内又は静脈内に注射する。必要があれば，その後20～30分毎に繰り返し注射する。 重症：初回アトロピン硫酸塩水和物として，2～4mgを静脈内に注射し，その後症状に応じてアトロピン飽和の徴候が認められるまで繰り返し注射を行う。  ECTの前投与の場合には，アトロピン硫酸塩水和物として，通常成人1回0.5mgを皮下，筋肉内又は静脈内注射する。なお，年齢，症状により適宜増減する。	
禁忌	①緑内障の患者 ②前立腺肥大による排尿障害のある患者 ③麻痺性イレウスの患者 ④本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	<b>本剤・他剤作用増強</b> 抗コリン作用を有する薬剤(三環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 イソニアジド 抗ヒスタミン剤) <b>本剤作用増強</b> MAO阻害剤 <b>他剤副作用増強</b> ジギタリス製剤 ジゴキシン等 <b>本剤作用減弱</b> プラリドキシムヨウ化メチル(PAM)	
副作用	<b>重大な副作用</b> ショック，アナフィラキシー様症状	

（薬品名）	エピルビシン塩酸塩注射用 50mg	劇
（英名）	Epirubicin	
（規格・含有量）	50mg/瓶 1バイアル中に日局 エピルビシン塩酸塩 50mg(力価)を含有。	
（一般名）	注射用エピルビシン塩酸塩	
（メーカー名）	日本化薬	
【薬価収載日】	2008年6月	
【薬価】	16,670.00円/瓶	
【薬効コード】	874235	
【薬効分類名】	抗腫瘍性抗生物質製剤	
効能・効果	①下記疾患の自覚的並びに他覚的症狀の緩解 急性白血病，悪性リンパ腫，乳癌，卵巣癌，胃癌，肝癌，尿路上皮癌(膀胱癌，腎盂・尿管腫瘍) ②以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法 乳癌(手術可能例における術前，あるいは術後化学療法)	
用法・用量	<b>急性白血病の場合</b> エピルビシン塩酸塩として15mg(力価)/m <sup>2</sup> (体表面積)を約20mLの日局注射用水に溶解し，1日1回5～7日間連日静脈内に投与し3週間休薬する。これを1クールとし，必要に応じて2～3クール反復する。 <b>悪性リンパ腫の場合</b> エピルビシン塩酸塩として40～60mg(力価)/m <sup>2</sup> (体表面積)を約20mLの日局注射用水に溶解し，1日1回静脈内に投与し3～4週休薬する。これを1クールとし，通常3～4クール反復する。	



	<p><b>乳癌、卵巣癌、胃癌、尿路上皮癌(膀胱癌、腎盂・尿管腫瘍)の場合</b>  エピルビシン塩酸塩として60mg(力価)/m<sup>2</sup>(体表面積)を約20mLの日局注射用水に溶解し、1日1回静脈内に投与し3~4週休薬する。これを1クールとし、通常3~4クール反復する。</p> <p><b>肝癌の場合</b>  エピルビシン塩酸塩として60mg(力価)/m<sup>2</sup>(体表面積)を約20mLの日局注射用水に溶解し、肝動脈内に挿入されたカテーテルより、1日1回肝動脈内に投与し3~4週休薬する。これを1クールとし、通常3~4クール反復する。</p> <p><b>膀胱癌(表在性膀胱癌に限る)の場合</b>  エピルビシン塩酸塩として60mg(力価)を30mLの日局生理食塩液に溶解し、1日1回3日間連日膀胱腔内に注入し4日間休薬する。これを1クールとし、通常2~4クール反復する。  注入に際しては、ネラトンカテーテルで導尿し十分に膀胱腔内を空にした後、同カテーテルよりエピルビシン塩酸塩溶液を注入し、1~2時間膀胱腔内に把持する。  なお投与量は年齢、症状、副作用により、適宜増減する。</p> <p><b>乳癌(手術可能例における術前、あるいは術後化学療法)に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合</b>  シクロホスファミドとの併用において、標準的なエピルビシン塩酸塩の投与量及び投与方法は、エピルビシン塩酸塩として100mg(力価)/m<sup>2</sup>(体表面積)を約20mLの日局注射用水に溶解し、1日1回静脈内に投与後、20日間休薬する。これを1クールとし、通常4~6クール反復する。  シクロホスファミド、フルオロウラシルとの併用において、標準的なエピルビシン塩酸塩の投与量及び投与方法は、エピルビシン塩酸塩として100mg(力価)/m<sup>2</sup>(体表面積)を約20mLの日局注射用水に溶解し、1日1回静脈内に投与後、20日間休薬する。これを1クールとし、通常4~6クール反復する。  なお、投与量は年齢、症状により適宜減量する。</p>
禁忌	①心機能異常又はその既往歴のある患者 ②本剤に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者 ③他のアントラサイクリン系薬剤等心毒性を有する薬剤による前治療が限界量(ドキソルビシン塩酸塩では総投与量が体表面積当たり500mg/m <sup>2</sup> 、ダウノルビシン塩酸塩では総投与量が体重当たり25mg/kg等)に達している患者
相互作用	<b>本剤・他剤副作用増強</b> ①潜在的に心毒性を有する抗悪性腫瘍剤(アントラサイクリン系薬剤等) ②投与前の心臓部あるいは縦隔への放射線照射 ③抗悪性腫瘍剤、放射線照射 <b>本剤副作用増強</b> バクリタキセル <b>本剤作用増強</b> シメチジン
副作用	<b>重大な副作用</b> 心筋障害、骨髄抑制、ショック、間質性肺炎、萎縮膀胱、肝・胆道障害、胃潰瘍、十二指腸潰瘍

(薬品名)	<b>献血ノンスロン 500 注射用</b> <b>献血ノンスロン 1500 注射用</b>
(英名)	KENKETU NONTHRON 500 for injection /1500 for injection
(規格・含有量)	1 瓶中に人アンチトロンビン III: 500 単位/1,500 単位を含有する
(一般名)	乾燥濃縮人アンチトロンビン III
(メーカー名)	日本製薬
【薬価収載日】	2001 年 7 月
【薬価】	30,999.00 円/500 単位 1 瓶 84,564.00 円/1500 単位 1 瓶
【薬効コード】	876343
【薬効分類名】	血漿分画製剤(血液凝固阻止剤)
効能・効果	先天性アンチトロンビン III 欠乏に基づく血栓形成傾向 アンチトロンビン III 低下を伴う汎発性血管内凝固症候群(DIC)
用法・用量	①先天性アンチトロンビン III 欠乏に基づく血栓形成傾向 : 本剤 1 日 1,000~3,000 単位(又は 20~60 単位/kg)を投与する。なお、年齢、症状により適宜減量する。  ②アンチトロンビン III 低下を伴う汎発性血管内凝固症候群(DIC) : アンチトロンビン III が正常の 70%以下に低下した場合は、通常成人に対し、ヘパリンの持続点滴静注のもとに、本剤 1 日 1,500 単位(又は 30 単位/kg)を投与する。 ただし、産科的、外科的 DIC などで緊急処置として本剤を使用する場合は、1 日 1 回 40~60 単位/kg を投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。
禁忌	本剤の成分に対しショックの既往歴のある患者 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	<b>本剤作用増強</b> 抗凝固剤(トロンボモデュリン アルファ(遺伝子組換え)製剤等)
副作用	<b>重大な副作用</b> ショック、アナフィラキシー様症状

## 削除医薬品通知

ノボセブン静注用 1.2mg・4.8mg	削除
チモプトール点眼液 0.25% 5mL	削除
ノボリン 40R フレックスペン	削除
ノボリン 50R フレックスペン	削除
クラビット細粒	販売中止のため削除
クラビット錠 100mg	販売中止のため削除
ソニフィラン筋注 20mg	販売中止のため削除
チョコラ A 滴	削除
ラジカット注 30mg	削除
スローフィー錠 50mg	削除
ヒデルギン錠 2mg	削除
チバセン錠 5mg	削除
ロブレソール錠 20mg	削除
ヒポカ 15mg カプセル	削除
ミニプレス錠 0.5mg	消尽後削除
ルネトロン錠 1mg	削除
ルネトロン注射液 0.5mg	削除
アロテック錠 10mg	削除
エミレース錠 10mg	削除

## 適応追加通知

パリエット錠 10mg	<p>①胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリの除菌</p> <p>②非びらん性胃食道逆流症</p> <p>通常、成人にはラベプラゾールナトリウムとして1日1回 10mgを経口投与する。なお、通常、4週間までの投与とする。</p>
タケブロン OD 錠 15mg	胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリの除菌
フラジール内服錠 250mg	胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリの除菌
サワシリンカプセル 250	胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリの除菌
レミケード点滴静注用 100	<p>中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限り)</p> <p>通常、体重 1kg 当たり 5mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。</p>

## 医薬品変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲムシタピン点滴静注用 200mg・1g 「タイホウ」（大鵬薬品）</li> <li>・ロゼウス静注液 40mg 「NK」（日本化薬）</li> <li>・ドキシルピシン塩酸塩注射用 10mg 「NK」（日本化薬）</li> <li>・エルプラット点滴静注液 50mg・100mg（ヤクルト）</li> <li>・ラジカット点滴静注バック 30mg（田辺三菱）</li> <li>・チョコラ A 末 1 万単位/g（エーザイ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェムザール注射用 200mg・1g（日本イーライリリー）</li> <li>ナベルピン注 40mg（協和発酵キリン）</li> <li>アドリアシン注用 10mg（協和発酵キリン）</li> <li>エルプラット注射用 50mg・100mg（ヤクルト）</li> <li>ラジカット注 30mg（田辺三菱）</li> <li>チョコラ A 滴 1 万単位/滴（エーザイ）</li> </ul>